



先日の台風22号の被害はありませんでしたか。次の23号が近づいているとか。稲刈りがまだ2ha以上も残っている(すずき産地)のに。というわけで、台風と稲作の話題で行政をスケッチすると...

いくつもの疑問符 もしくは、 どいつも こいつも

北茨城市を流れる大北川。常磐自動車道と交差する地点のすぐ下流あたりは流れが大きくカーブを描いています。昨年の秋のこと、そのカーブ地点の河底がえぐられ、護岸ブロックに亀裂が入っていると、近所の人が知らせてくれました。

さっそく、県の土木事務所に足を運び、早急な対策を求めました。で、お決まりのセリフですが、「なにせ予算がないもので...」

そして、「いま上流で小山ダムの工事がすすんでいるので、それが完成すれば大丈夫でしょう」だと。

おいおい、かつて花園川上流の水沼ダムの放流が被害を大きくしたことを知っている身としては聞き捨てならないぞと思ったら、たまたま対応に出ていた県の職員氏の1人が「地元ではダムに対する不信感は根強いものがあるんですよ」と口を挟んでくれましたっけ。とは余談。

その後、対策工事がおこなわれました。といっても、ブロックのすき間にモルタルを流しこんだだけ。川の流れて基礎がえぐられているのに、上のヒビにフタをして意味あるかい! とは素人の疑問かな?

そして、先日の台風22号。写真のとおり、数十メートルにわたって護岸ブロックが崩れてしまいました。

なけなしの予算で担当者は努力したのでしょうか。しかし一方で、ケタちがいのカネを注ぎ込んで、利用のあてもないダムを作る巨大な浪費を自分の仕事のなかでどう納得をつけてるのかなあ?

*

関連ですが、かつて某市議会で、水需要のあてもないのにダムを作るのは税金のムダづかいだとの指摘に対し、某市長は、水の利用については全くふれられずに、「災害は怖いものです」と漠然きわまる答弁しか

できませんでした。水害対策の一般論だけで、ムダづかい批判を一蹴してしまっただけです。暴論だよねえ?

*

話は飛んで、この9月の某市議会。生産者米価の暴落で、稲作農家の所得減がどれくらいになると把握しているのかという質問に対し、当局の答弁は、コメ価格センターでの入札をもとにした試算でした。

今年の農協への仮渡し金(出荷価格)が1万1000円ほどという通知を承知の上で、あえて市場での落札価格1万5900円という数字を使ったのです。しかも、そのときの落札率は15%にすぎなかったのに、そんな事実にはふれもしません。

つごうのいい数字だけをつまみ食いする形で、農政の末端の責任者が、あえて農家の所得減を少なく見せようとしたわけですが、そんな姑息な操作をする理由は何?

こんどの土・日

日立民商 主催

商工まつり

10月16日 12:00~17:00
10月17日 09:00~15:00

① この「まつり」は、苦しいなかでがんばって努力している小零細な商売人の心意気を、元気をなくしている業者にアピールしていく。

② 小零細業者はやる気はあるが宣伝する場、機会が少ないので、その場を提供していく。

③ 同業、異業者が同じイベントをする中で、お互いの営業・販売・情報の交流の場にていく。

ことを目的に新たな仕事おこし、まちおこしになればと企画。

日立民商のHPから転載しました。農民連もコメや野菜をもって参加しま〜す。



会場: 日立地区
産業支援センター